
シンポジウム

新潟市救急医療体制の現状と課題

— それぞれの立場から —

Emergency Medical System in Niigata City

— Current Status and Problems —

第 642 回新潟医学会

日 時 平成 20 年 7 月 19 日 (土) 午後 3 時から

会 場 新潟大学医学部 有壬記念館

司 会 遠藤 裕 (救急医学教授), 山崎芳彦 (新潟市民病院救命救急センター長)

演 者 佐藤 満 (新潟西消防署), 山崎 哲 (新潟市保健所), 小島直之 (新潟医療センター神経内科),
池野観寿 (新潟市民病院小児科), 菊池 朗 (周産母子センター), 田中敏春 (新潟市民病院救命
救急センター)

1 新潟市内の救急活動の現状 (救急隊員の立場から)

佐 藤 満

(新潟市西消防署)

The Present Conditions of the Emergency Activity of Niigata City (From the Standpoint of an Ambulancecrew)

Mitsuru SATO

Niigata City West Fire Station

新潟市の救急隊概要

当市では, 平成 17 年に合併し, 現在, 救急隊 25

隊 救命士 101 名 救急隊員 124 名 計 252 名で
活動している. 平成 19 年の救急出動件数は, 年間
28,838 件, 一日当たり約 80 件である.

Reprint requests to: Mitsuru SATO
Niigata City West Fire Station
80-1 Makio Nishi-ku,
Niigata 950-2121 Japan

別刷請求先: 〒 950-2121 新潟市西区横尾 80-1
新潟市西消防署 佐藤 満

○医療機関への問合せ 照会・回答について

<1回の割合が減少>

全国的に救急搬送のたらい回しが伝えられている中、当市にあっては問合せ数が増加していた。平成17年・18年・19年を比較すると1回の割合が減少し、2回以上複数回の問合せ割合が増加していた。中でも、4回以上多数の問合せをしないと収容先が決まらない事案も平成18年の712件から平成19年の1036件と324件の増加であり、前年比145.5%と大幅に増加していた。これは、平成19年中に救急隊が医療機関に傷病者を搬送するために問合せをして搬送した件数18,253件の17.6件に1件の割合で発生しており月平均約86件も発生していることになる。

<医療機関への問合せ回数の増加>

平成19年中に救急隊が傷病者を搬送するために、医療機関に収容の可否を問いあわせた延べ回数は27,650回で、平成18年の23,937回より3,713回増え、前年比115.5%と大幅に増加していた。1回の問合せにかかる時間(救急隊が医療機関に電話連絡し収容の可否の回答を受けるまで)を平均3.8分とすると年間約235時間も病院連絡に要する時間が増加したこととなり、おのずと医療機関に到着するまでの搬送時間も増加することになる。

○医療機関への問合せ(照会・回答)に係る時間について

対象 主な医療機関23病院で実施した。

期間 平成19年6月1日から12月31日までの7ヶ月間で調査した。問合せ総件数は8,874回で最多問合せ回数は1,104回、最少問合せ回数は43回であった。1回の照会から回答までに要する時間は、最短で1分程度であった。また最長時間は各医療機関で違いはありますが、最も長かったのは30分であった。1回の照会から回答までに要

する平均回答時間の最短医療機関は2.82分で平均回答時間の最長医療機関は4.78分であった。平均回答時間の最短の2.82分、最長は4.78分であり当市の主な23医療機関の平均回答時間は3.86分であった。

ま と め

救急隊は、傷病者を医療機関に搬送する際に、事前に連絡がついている場合を除き、医療機関に傷病者の状態等を電話にて伝え、収容の可否について回答を得ている。

照会から回答まで1分程度で可能な医療機関であっても、場合により長時間を要しているのが現状である。

最近の医療事情では、複数の医療機関に照会しなければ搬送先が決まらない事案が増加しており、中でも4回以上の問合せが大幅に増加している。

多くの医療機関では、交換手から看護師へと電話がまわり、それから看護師が医師に情報を伝え収容の可否について判断を求めているため、時間の多くを費やしていると推測される。

結 語

医療資源の集中している新潟市でも救急搬送に苦慮しているのが現状である。各医療機関は、可能な限り迅速に収容していただきたい。

医療機関の迅速な回答は、救急搬送に係る基本的事項であることを、各医療機関は理解し、院内の速やかな連絡体制の充実をお願いしたい。

複数回の問合せが増加している現状から今後、救急コーディネーターの配置が早急に必要と思われる。